六甲祭企画書

▼企画立案の経緯

来年の１月１７日で阪神淡路大震災から２５年になります。神戸大学は震災で３９人の犠牲を出し、以来献花式が六甲台キャンパスの慰霊碑前で毎年行われています。しかし、去年の1月１７日献花式を訪れた学生は皆無でした。

１９９５年は「ボランティア元年」とも言われています。神戸大学でも震災を契機に学生ボランティア活動が盛んになり、その流れは現在につづいています。

２５年を１つの契機として、もう一度学生が震災に向き合う機会を作りたいと思い、メディア研は震災企画を開始しました。

▼企画の目的・趣旨

メディア研は、来年1月１７日の阪神・淡路大震災２５年にむけて「あの日、何があったのか」をテーマに、ブログやツイッターで記事をアップします。多くの学生や教職員に、＜震災体験＞を発信していきます。六甲祭では写真パネル展とトークセッションを企画しています。

▼企画の内容

〇写真パネル展〈１１月９日（土)、１０日（日)〉

崩落したＪＲ六甲道駅、崩れ落ちた阪神高速道路神戸線の高架、焼け落ちた下宿アパートなどの記録写真とともに、亡くなった神戸大の学生の遺族からのメッセージをパネル展示する。

〇震災を語り継ぐ、トークセッション〈１１月１０日（日)〉

１０日の１３時から、いずれも神戸大ＯＢ・ＯＧの弁護士の津久井進さん（１９９３年・法卒）と中国新聞の里田明美さん（１９９６年・自然科学研究科修了）とNHKアナウンサーの住田功一さん（１９８３年・営卒）をお招きしてトークセッションを開催します。

▼最後に、

メディア研は来年の1月１７日に向け、阪神淡路大震災を伝える活動を続けていきます。
どうかご協力いただきますようお願いいたします。